

# 坐骨神経

## 坐骨神経叢(Pl. ischiadicus)

大坐骨孔から出た筋枝は外寛骨筋、大腿屈筋、下腿及び足のすべての筋を支配する。皮枝を殿部、大腿の後面、下腿、足の皮膚へ送っている。

- 主要な枝は、
1. 上殿神経(図には被われている)：殿部の深層に出て中殿、小殿筋、大腿筋膜張筋へ行く。
  2. 下殿神経：殿部の深層に出て、大殿筋へ分布する。
  3. 坐骨神経
  4. 後大腿皮神経

## 坐骨神経(N. ischiadicus)

人体で最大の神経であり、鉛筆位太く、1 m 位長い。梨状筋の下で下殿神経と大坐骨孔を出て、大殿筋、大腿二頭筋(長頭)に被われて下行し、筋枝をすべての大腿屈筋に与え、膝窩の上方で総腓骨神経と脛骨神経に分れる。

**機能**  
上殿・下殿神経については坐骨・陰部神経叢の部位で述べる。

**大腿屈筋(Hamstrings) (坐骨神経)**：大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋から成り、坐骨結節から脛骨または腓骨上端へ附着し、大腿を屈曲させる。

**大内転筋**：閉鎖神経に支配されているが、一部坐骨神経に支配され、大腿屈曲と共に内転の作用をする。

**知覚**：大腿後面の知覚支配を行なう。

**臨床**  
脊椎の疾患(椎間板ヘルニアなど)、股関節脱臼、悪性腫瘍、中毒、感染などで侵され易い。坐骨神経痛はしばしばみられる。坐骨神経に沿った圧痛を来す。また運動麻痺は大腿屈筋の脱力および下腿、足筋の麻痺を来す。

